

## 滞 歐 雜 記 帳 (その二)

工 學 士 山 本 峰 雄<sup>(1)</sup>

### 2. 伯林自動車展覽會

第一時世界大戰の終つた1918年から1930年頃迄は大戰後の疲弊と引續いて起つたインフレーションと携へ、加へて1921年に本國に歸還した露國遠征軍の齎した共產思想の侵潤とに依り獨逸の國民生活はどんぞこの悲惨な状態に陥つたのである。

斯くの如き世相と思想の下に在つては自動車工業の發達の如きは思ひもよらない事であつて、事實ドレスデンの近傍ビルナの町の如きは6年間に互つてその工場を共産黨に占據され自家用自動車通過すると之に投石して破壊すると云ふ暴行を行ひ、又伯林の共産黨の根拠地であつたアレキサンダーブラック附近に於てはワイヤロープを張つて自家用車の運轉者の頭を引かけると云ふ亂暴を行つたさうである。

然し1914年のマルヌの戦、1916年のヴェルダン戦及び1918年初頭の獨逸の總攻撃に於て、優勢なる機械化部隊を有する聯合軍に悩まされた獨逸は國家の機械化を痛切に感じたのである。

斯くして1933年ヒットラーが獨逸の政權を獲得すると共に獨逸の自動車化(Die deutsche Motorisierung)をナチスの黨策の一つとして採用し四ヶ年計畫の中に加へ、自動車の一般大衆への徹底的普及、ナチス黨機械化隊(NSKK)の創設と機械化スポーツの奨励、機械化部隊の充實、自動車専用道路の建設、自動車及其附屬品の標準化、自動車用材料の國産化に乘出したのである。

(1) 航空研究所

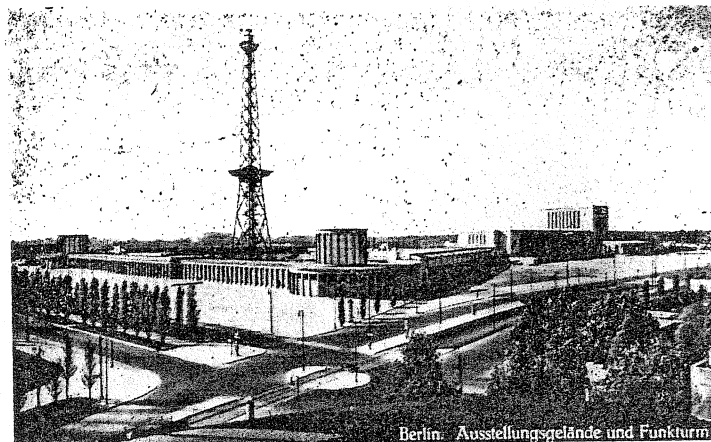
而して1933年2月11日即ち政權獲得の2週間足らずの後に第1回の自動車展覽會を開催したのである。實にヒットラーの政權獲得後の第一の仕事は自動車展覽會であつた譯である。そして1934年の自動車展覽會の開會式にヒットラーは國民自動車を作り國民大衆に低廉最新式の自動車を提供する事を宣言した。私の見た展覽會は第7回目であつて2月17日から3月5日迄伯林のカイザーダム及フンクトウムに於て歐洲最大と云はれるだけあつて盛大に開かれた。

當時私は獨逸に到着して3週間足らずであつて日本に居た時は獨逸の疲弊して居る話許りを聞かされてゐたので、獨逸の自動車工業はどうせ大した事はないと思つて居たし、飛行機工業も米國の方が偉いと思つて居たので、此の展覽會も見物の積りで出かけたのである。

此の展覽會は正式には國際自動車及オートバイ展覽會(Internationale Automobil-und Motorrad-Ausstellung)と云ふのであつて地下鉄カイザーダム驛と市鐵ウイツツレーベン驛との附近の常設博覽會場の大ホール9個と外に附屬廣間3個を使用して居た。

正面入口の Ehrenhalle にはナチス黨勞働戦線(DAF)で一般國民大衆に配給する爲に作られた所謂國民自動車(Volkswagen)(正式には KdF-Wagen)が此の展覽會に始めて出品されて大衆の非常な關心を集めて居た。ポデー迄完成したKdF自動車2臺とシャシー1臺が陳列されて居てNSKKの隊員が説明して居る。大勢の人々の背中越しに

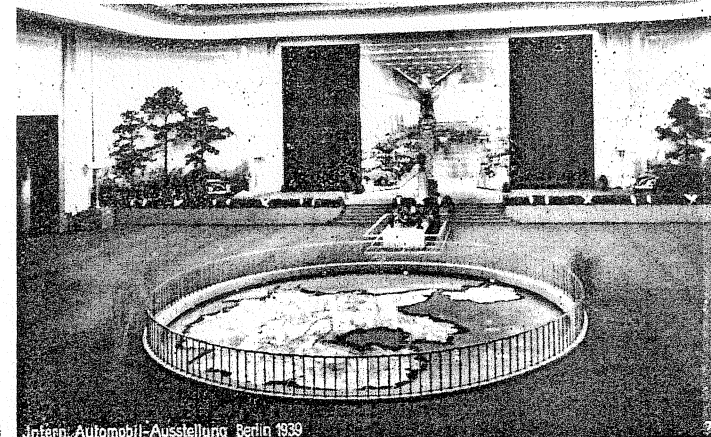
説明を聞き其の構造を見て居ると此の自動車が安つばい意味の「大衆」自動車所では無く極く最新式の技術を極度に利用した高級車に屬するものであり、只小型の車であると云ふ事、即ち燃料消費量が少ない點に於て大衆的である事を知つた。ボデー及シャシーの構造は全てプレスで鐵板を打出してそれを組立てればよい様になつて居て如何に大量生産に依り價格の低廉を企圖して居るかが一見明かである。此の自動車を見て獨逸に對する認識を大分改めたのであるが、更に此のエーレンハレの外を廻るとダイムラーベンツやBMWの競速記録を取つた競走用自動車や、BMWのスポーツカー、BMWやDKWの競走用オートバイ、更に世界競速記録を保持するBMW及DKWの競走自動車が飾つてあつて、獨逸がNSKKに依つて自動車スポーツの方面に、如何に偉大なる業績を擧げて居るかが一目して判るやうになつて居る。此處を出て愈々第一ホールの本館の中央部に入ると此の大きなホールの床面は各國から出品した乗用自動車の群で見渡す限り埋められ其の壯觀は言語に絶する。出品された乗用車の数はボデー製造業者出品のものを合せて170臺以上に達し其の大半は勿論獨逸製品であつて外國からは英、米、佛が出品し特に前年9月獨逸に併合されたズデ



第1圖 自動車展覽會の行はれるフンクトウムの常設展覽會場

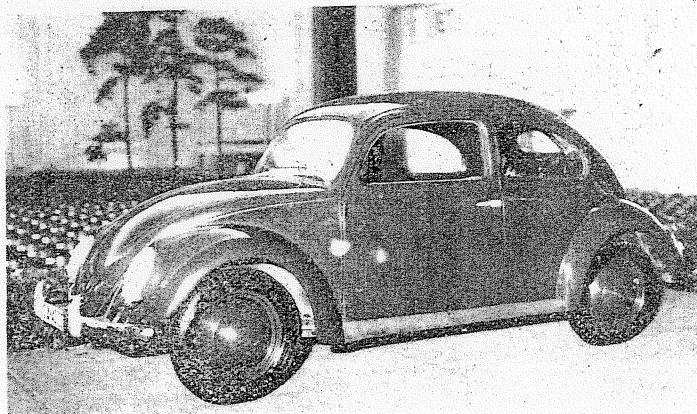


第2圖 自動車展入口(左右)

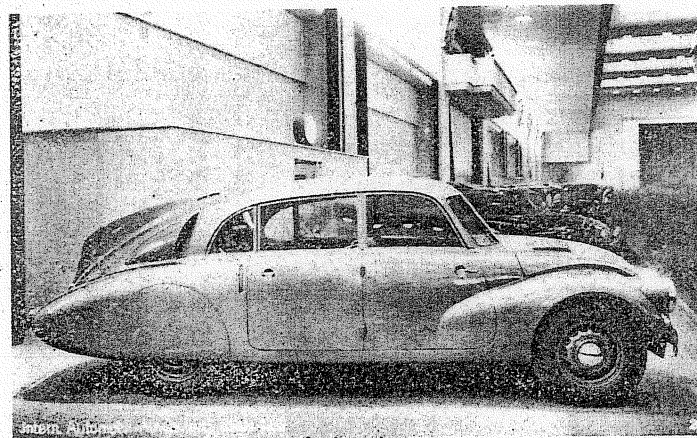


第3圖 エーレンハレの内部

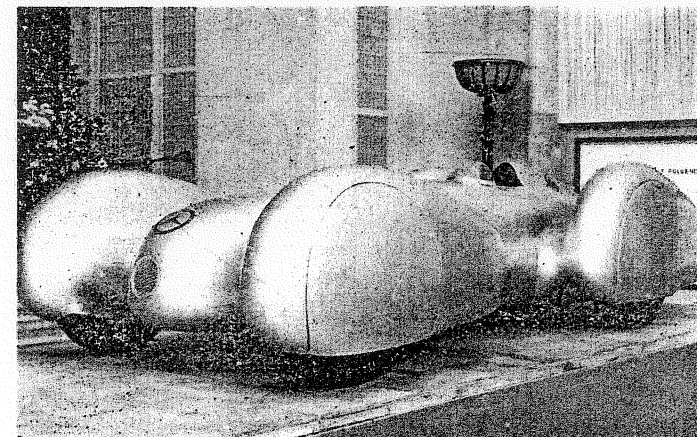




第4図 KdF自動車



第4図 クトラ流線形自動車



第6図 ダイムラーベンツの競走自動車

ーテンのリンクホーフアートラ  
會社の空氣冷86馬力發動機を車體  
後尾に付けた流線形乗用車は其の  
設計の漸新な事とズデーテンの出  
品と云ふ事實から著しく注目を惹  
いた。空氣冷發動機を後尾に付け  
た點はKdF自動車と同様であり、  
又此の二つの自動車は他の大半の  
出品自動車と共に分離式車軸を付  
けて居る。

一般に米國に比し歐洲の自動車  
の流線形はより洗練されて居る事  
は確かである。構造上から見ても  
幌式天蓋を有する小型車等は實に  
よく出来て居る。2、3年前迄米國  
の特許を買つて居た獨逸の自動車  
工業はまたゝ間に非常な進歩を  
したものである。此の事は工業の  
基礎の確立して居る事が主要原因  
であつて、獨逸の飛行機工業の未  
曾有の進歩も同じ所に原因がある  
と考へられるのである。第1ホー  
ルの周圍は自動車用軸受、照明器  
具、氣化器、自動車用ラヂオ受信  
器等の附屬器及高壓力鋼製造會社  
のスタンドで埋められて居て一々  
見て歩くとすつかり疲れて終うで  
あらう。

第1ホールと第2ホールの間の  
廣間は60臺に近いスポーツ用、軍  
用等のオートバイ、サイドカー及  
び各種各様の附屬品が陳列されて  
居る。中にはオートバイ用のサド  
ルだけ作る専門會社もあると云ふ  
具合である。

第2ホールは第1ホールより少  
し小さいが床面に各種の貨物自動  
車、牽引車、曳行車、バス、特殊  
自動車が約60臺許り並べてあり、  
其他貨物自動車用のディーゼル發  
動機、獨逸で貨物自動車に全般的  
に使用して居る動力瓦斯用ポンプ  
冷却器等が此の間に挟つて陳列し  
てある。

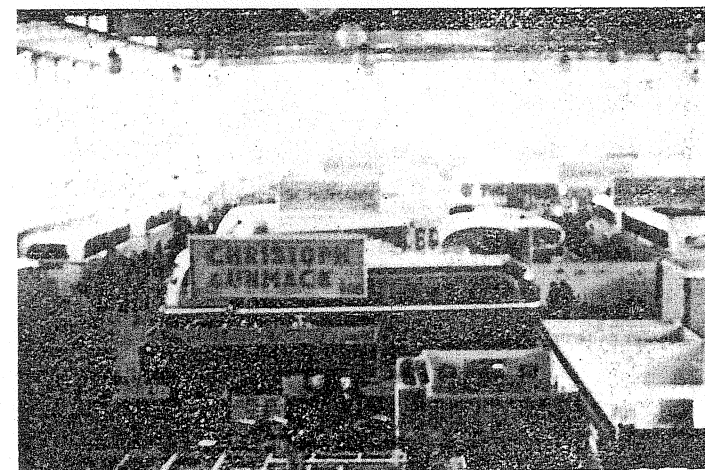
更に第3ホールは自動車材料、  
第4ホールは小型貨物車、電氣自  
動車、附屬品、工作機械、主とし  
て自動車に關する参考書、乗用自  
動車の後部につけて泊りがけの旅  
行に出たりする曳行車を陳列して  
ある。参考書の中には飛行機の參  
考書も入つて居て仲々便利であり  
自動車運轉學校で交通規則を教育  
する爲に作られた模型臺や掛圖も  
ある。第5及第6ホールは工作機  
械用具、ガレーヂ、修理機具、ガ  
ソリンスタンド、等が陳列され、  
第7ホールは一般附屬品、第8ホ  
ールは貨物用曳行車の附屬品、を陳列してある。  
第9ホールはバス、輕金屬機、安全硝子、等が陳  
列され更に獨逸各大學及會社から出品された自動  
車研究設備が並べてある。

又NSKKの現況、獨逸國有鐵道や郵便局のバス  
更に獨逸陸軍の全熔接製の大小戦車が出品されて  
居る。輕金屬の自動車及び鐵道車輛更に建築への  
應用は全世界に於ける最近の新しい傾向であつて  
我々には自動車への應用は特に興味が深い。

獨逸に於て全アルミニウム産額の三分の一が  
鐵道車輛へ、他の三分の一が建築材へ、其の他の  
三分の一が飛行機に使用されて居る。一旦緩急あ



第7図 自動車展覽會第一ホールの内部



第8図 柏林自動車展貨物自動車の部(著者)

れば平時建築其他に使用されて居るアルミニウ  
ムは飛行機に轉換出来る。斯くして平時から生産  
能力の保持を行つて居るのである。

自動車に關する研究も我々飛行機の研究に従事  
するものには特に計測器の方面では大いに參考と  
なるものが多い。即ちクランクシャフトのフイレ  
ット附近の集中應力を測定する短標點距離歪計や  
車輪ブレーキの試験裝置や、オツシ・グラフ、自  
動車の流線形の研究等は夫々の意味で我々を教へ  
て呉れる。

何れにしても獨逸の自動車工業及び之に關聯し  
た工業は全て此の展覽會場に出品されて居るから



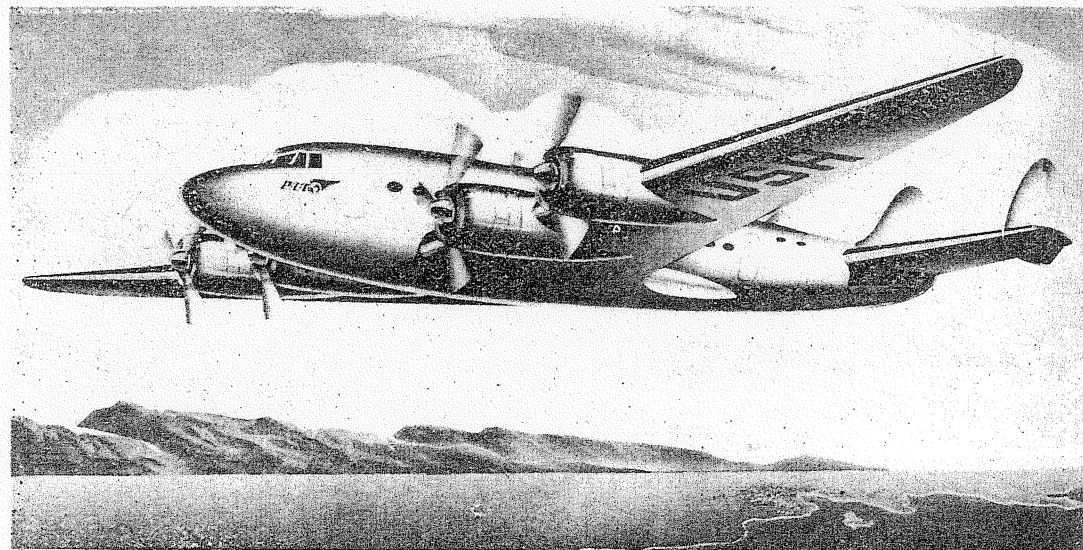
獨逸の工業力が如何に偉大であるかは会場を一度り歩いて見れば判然する譯である。汽車に乗つて外の國から獨逸に入ると獨逸は眞の工業國であると云ふ事が沿線の工場の密度と規模から判定出来るが、こんな展覧會を一見すると更に深く印象付けられる。

第一次歐洲大戰の勃發した時に、僅かに 64,000 臺の自動車を持し大戰が終了した時にも 75,000 臺の自動車を有するのみであつたが 1937 年末には自動車、オートバイを含めて 2,800,000 臺となり、年生産量に於ては、32 年に自動車、オートバイ 100,000 臺であつたものが 37 年には自動車 28,000 臺、三輪車 12,000 臺、オートバイ 149,000 臺となり、佛國を問題にならない位に引離して了つた。そして尨大な KdF 自動車の製産量に依り數年後に

は米國の壘を摩する所に漕付け様と懸命な努力を拂つて居る譯である。

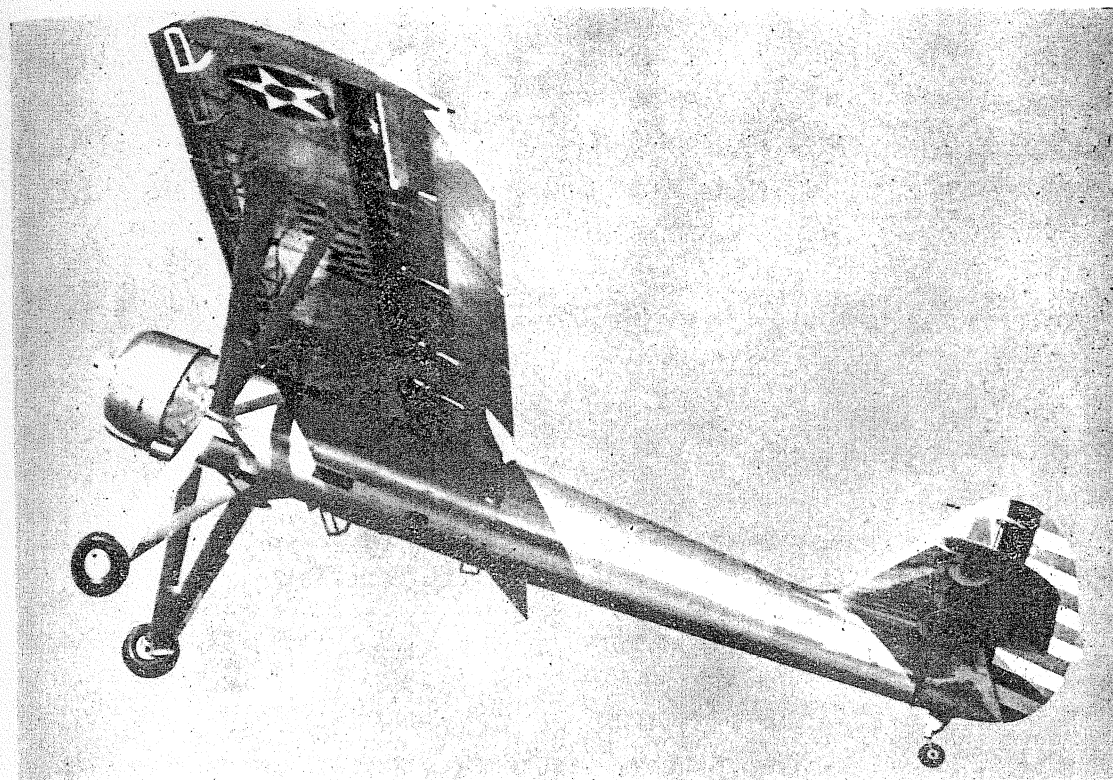
又一般大衆の自動車への關心や研究心も KdF 自動車や自動車オートバイのスポーツ、ヒットラーユーゲンツ機械化スポーツ班の活動等に刺戟されて非常なものであつて、展覧會の中の見物人には子供が多く、各スタンドを廻つてカタログを集めて居る少年にも心よく欲するものを與へ、然かもカタログ入れの箱を廣告に配つて居て此の中に蒐めたカタログを入れて嬉々として会場を廻つて居る。眞に羨しい風景である。こんな所から國民の技術的知能が不知不識の裡に養はれて之が實を結ぶのだと一人で感心して居た譯である。

(15.4.15)



ロックヒール F44 型輸送機 (米國)

— 世界航空情報参照 —



ライアン YO-51 型直協機 (米國) 米國陸軍としては初めての機種で、最小速度を著しく低下し得ること、従つて離着陸滑走距離の短いことを特長とし、地上部隊との連絡を主たる目的とする。外形と云ひ性能と云ひ獨逸のフィーゼラー 156 型とそっくりである。最小速度を減ずるため、主翼前縁には全翼幅に亘つてスロット翼を有し、しかも後縁には、これも殆ど全翼幅にフェウラー型フラップを附けてゐる。その上翼荷重も小ささうであるから、最小速度は恐らく 40~5 軒/時まで下げられるのであらう。フラップが全翼幅に亘つてゐるので、補助翼は寫眞で見る如く上方へのみ動く型式らしく、フラップを下げた時には、補助翼の方がフラップより前方にあると云ふ珍しい配置になつてゐる。

かかる機種の出現によつて オートジャイロ はいよいよ影が薄くなりさうである。(井出 昌吉)